

伊敷団地まちづくりニュース

第
4号

～団地活性化に向けて**まずやってみたいこと**を考えました～

令和元年 8月 19日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、具体的な取り組みについて検討を進めています。

今回は7月30日に開催した第4回ワークショップの概要についてご紹介いたします。

第4回ワークショップ

日時：7月30日（火）19時～21時

場所：西伊敷校区公民館

第4回ワークショップの流れ

① 前回のふりかえり

前回のワークショップで出された、伊敷団地の「魅力」を活かした取組み、「課題」を克服するための取組みのアイデアについておさらいしました。

② 学生発表・話題提供

これからの取組みを検討するための参考として、鹿児島大学の学生による伊敷団地の調査結果や、現在市が行っている支援制度の一例を紹介しました。

③ グループ分け

取組みアイデアを5つのテーマに分類し、それぞれ興味があるテーマに分かれました。

④ これからの取組みについて考える

選んだテーマごとに、取組みアイデアを整理し、取組みを行うことによる最終的な目標や、「まずやってみたいこと」について話し合いました。

⑤ 発表

グループごとに話し合った内容を発表しました。

⑥ まとめ・講評



学生による発表の様子



発表の様子

次回のお知らせ（※申し込みは不要です）

【第5回ワークショップ】団地での取組みの方向性を話し合おう！

日時：令和元年9月10日（火）19時～21時

場所：西伊敷福祉館 ※第4回までとは開催場所が異なります

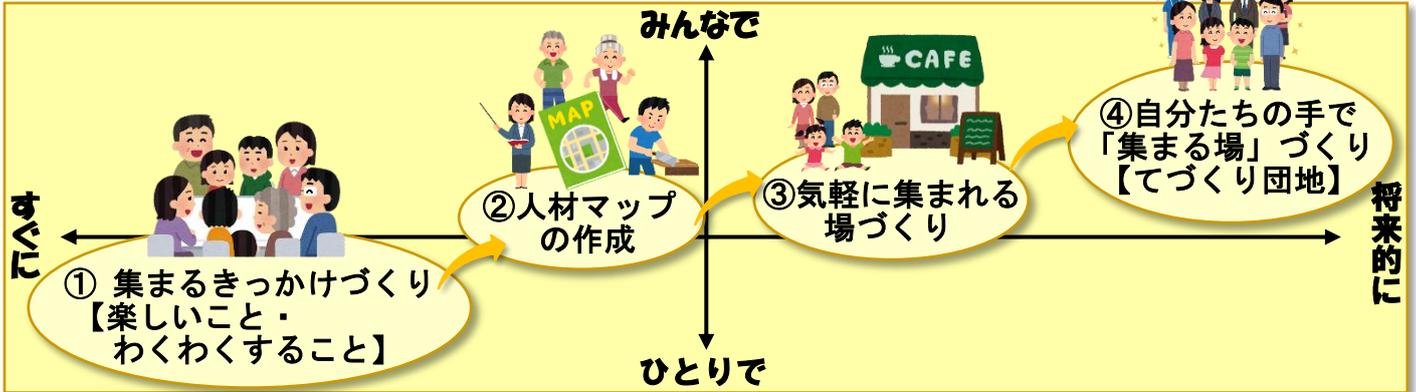
皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

※ワークショップとは…話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

グループワーク ～団地のこれからの取組みを考えよう！～

第3回ワークショップで出し合った団地活性化のための取組みアイデアを、グループごとに「すぐに・将来的に」できるもの、「ひとりで・みんなで」できるものの2軸で分類し、取組みによる最終的な目標や、「まずやってみたいこと」について話し合いました。

第1グループ 集まる場所づくり



①集まるきっかけづくり

- ・楽しいこと・わくわくすることをきっかけに、自然に集まれるようにする
- ・趣味を共有する仲間を見つける
- ・習い事等の発表の場をつくる
- ・庭先に休憩ベンチを設置する

②人材マップの作成

- ・団地内で、誰がどこで何をしているか分かるようにする

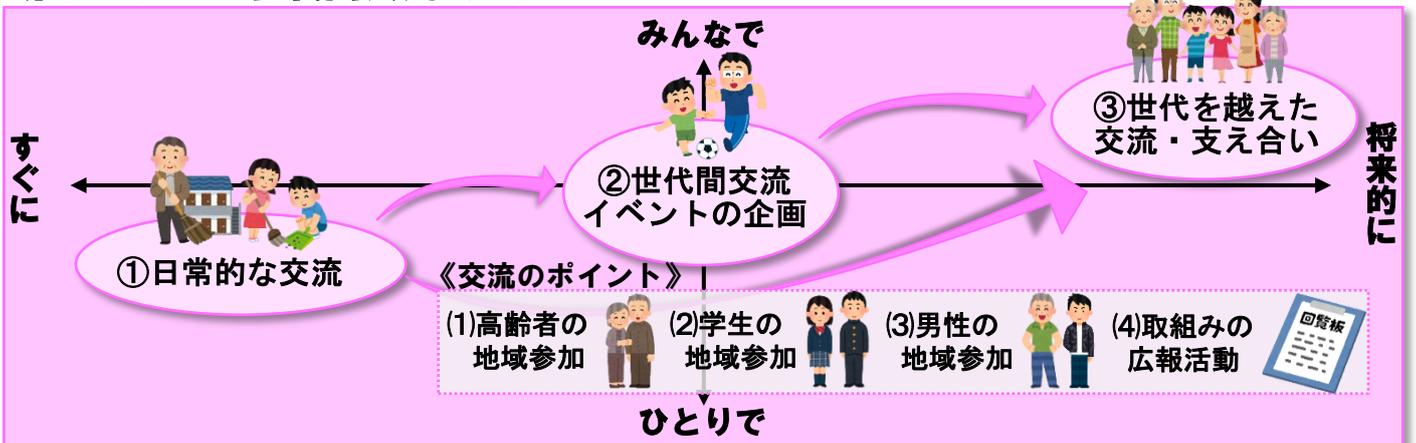
③気軽に集まれる場づくり

- ・「てのんでかふえ」のような取組みを増やす
- ・住民をつなげる場をつくる
- ※以下は気軽に集まれる場の例
 - ・高齢者が寄り添える場所
 - ・若者も高齢者も集まれる場所
 - ・認知症の人もそうでない人も集まれる場所(＝オレンジカフェ)
 - ・幼児を遊ばせる場所(見守り)
 - ・自宅の空き部屋の提供、活用
 - ・空き家を活用した集う場

④てづくり団地

- ・みんなが集まれる場所を自分たちでつくる
- ・小学校で趣味、レクリエーション、ヨガ等を実施する(大人も混じる)

第2グループ 世代間交流・支えあい



①日常的な交流

- ・家のまわりの清掃で交流する
- ・皆で花壇をつくる
- ・特技を共有できる教室を開く(若者の協力によるインターネットの使い方教室等)

《交流のポイント》

(1)高齢者の地域参加

- ・家から出られない高齢者を支援する
- ・高齢者宅に訪問し話し相手になる

(2)学生の地域参加

- ・中学生・高校生・大学生にも活動を普及する
- ・学生に夏祭り実行委員を依頼

(3)男性の地域参加

- ・男性の地域交流の機会、場をつくる

②世代間交流イベントの企画

- ・地域行事の時間を変えて若者が参加しやすくする
- ・成人学級の活用
- ・世代間交流ができるイベント
- ・伝統や文化を活かしたイベント
- ・町内会とあいご会が連携したイベント
- ・団地間の交流イベント

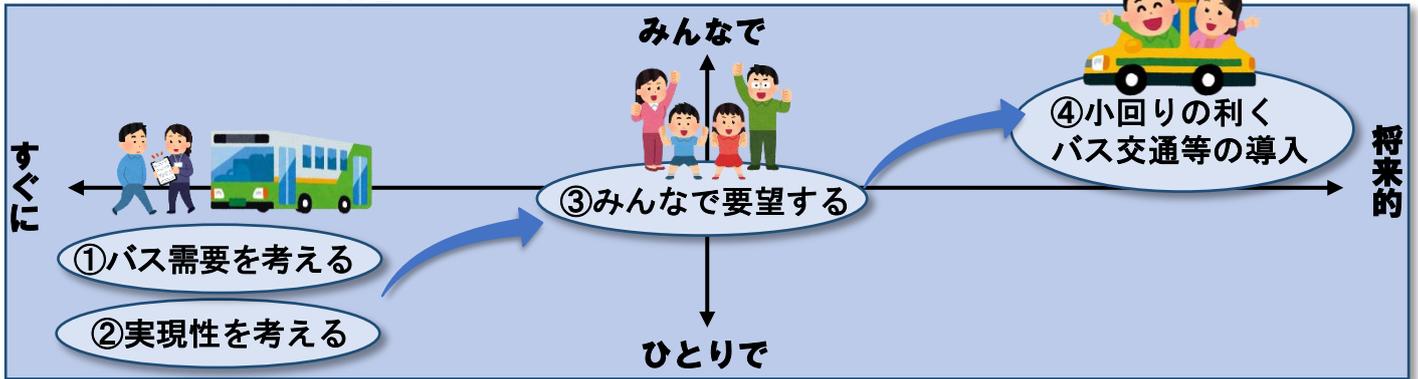
③世代を越えた交流・支え合い

- ・困っていることを近隣住民で助け合う

(4)取組みの広報活動

- ・広報活動の充実(地域の活動をもっと知らせるため)
- ・回覧板の活用

第3グループ バス交通

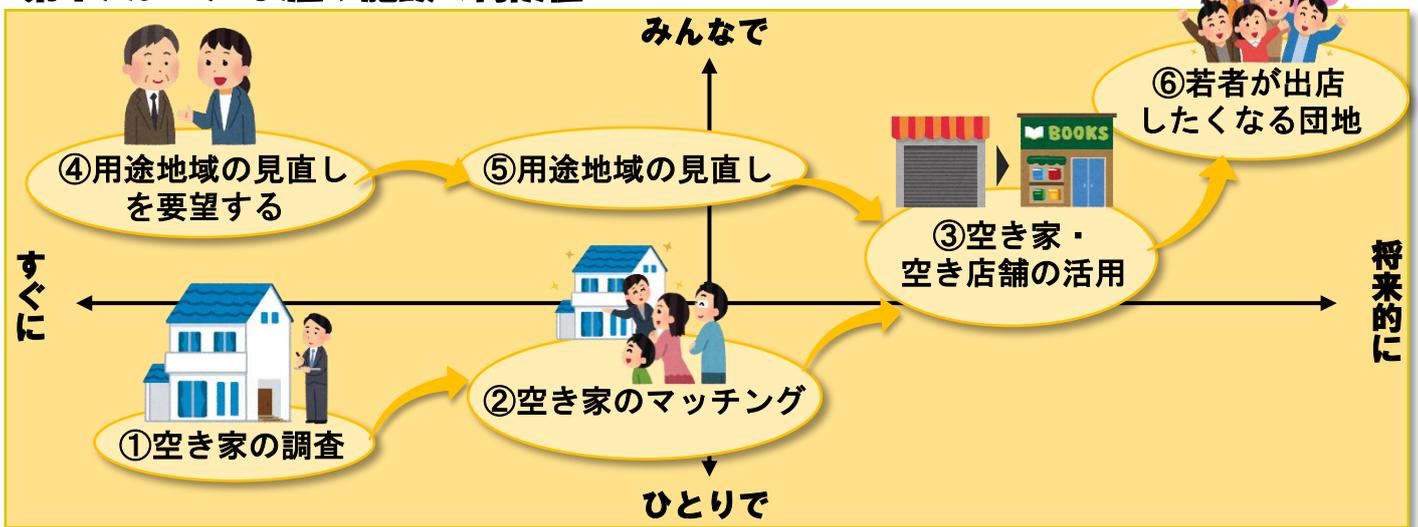


- ①バス需要を考える**
- ・市の中心市街地への便は良いが団地内移動に困る高齢者がいる
 - ・高齢者は買い物の際にバスを使うが利便性が悪い
 - ・坂道が多く、団地中央部へ行くのに苦労している
- ②実現性を考える**
- ・バス会社の利益も考える
 - ・バス運転手の人手不足
 - ・交通事業者へ委託すると料金が安い

- ③みんなで要望する**
- ・一丁目の市バスの乗り入れ、バスルートの見直し
 - ・五丁目のバス便数の増加
 - ・バス最終便を 22 時 30 分に見直す
 - ・バスのステップ台を低くして、乗りやすくする
 - ↓ ↓
 - ・バス交通を改善するには、住民、交通事業者、市役所との連携や協力が必要

- ④小回りの利くバス交通等の導入**
- ・頻繁にくる小回りの良いバスの導入
 - ・団地内回遊バスの導入
 - ・ボランティアによる移動支援 (かつて断念したが、再度検討する)
 - ・団地内で移動に困っている人と、車に乗せてくれる人のマッチング
 - ・乗り合いタクシーやデマンドバス
 - ・パトロールも兼ねたバスの代わりになる交通手段の導入

第4グループ お店や施設の利便性



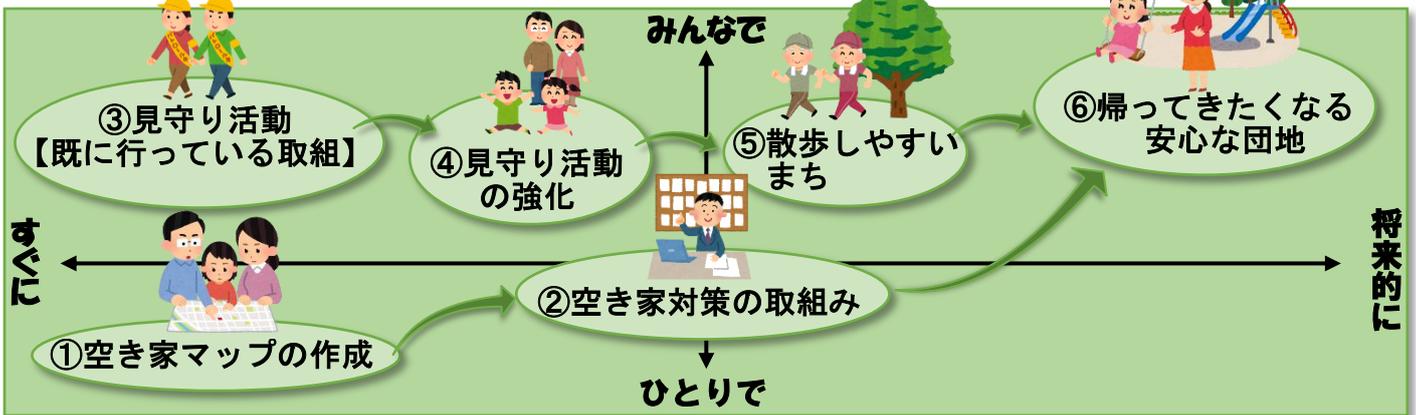
- ① 空き家の調査**
- ・空き家や空き店舗がどこにあるかわからないため調査を行う
- ④⑤用途地域の見直し**
- ・若者が出店（店舗、事務所等）しやすくするため、規制緩和を要望する

- ②空き家のマッチング**
- ・空き家と使いたい人を繋ぐ仕組みをつくる（空き家を持っていることを知られたくない人もいるので注意する）

- ③空き家・空き店舗の活用**
- ・配達所、販売所として利用
 - ・おじいちゃん食堂を企画
 - ・空き家を活用して、多目的図書館をつくる
 - ・空き家に文化施設を誘致
 - ・文化活動の場をつくる

- ⑥若者が出店したくなる団地**
- ・若者が商売したくなる、魅力的な団地を目指す
 - ・若者に積極的に出店してもらう
 - ・個人商店を利用する仕組みをつくる
 - ・タイヨー周辺に屋根やアーケードを設置する

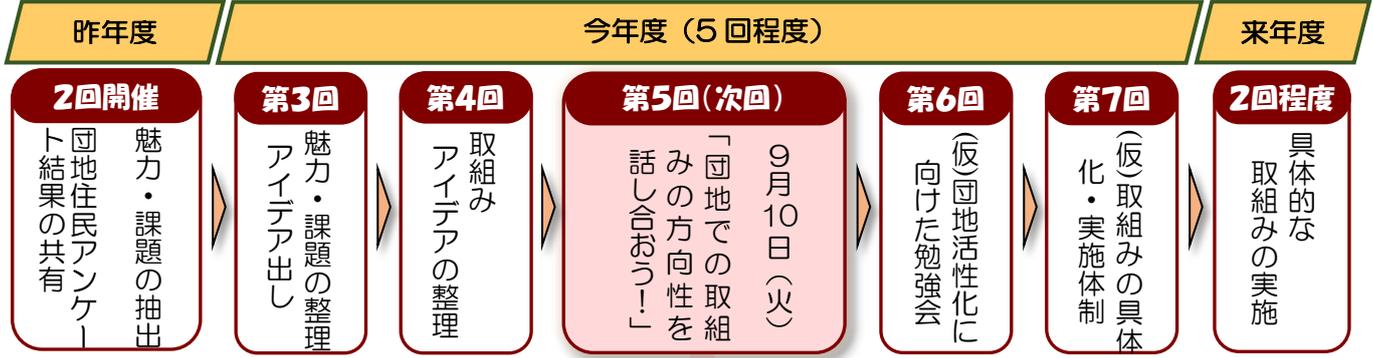
第5グループ 安心・安全な生活環境



<p>①空き家マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会単位で世帯の確認をする ・空き家のリストをつくる ・地図上にマッピングする ・不動産屋に協力を仰ぐ ・空き家になる前の活用法を考える（終活） 	<p>②空き家対策の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家相談窓口の設置 ・空き家のパトロール活動 ・国家公務員宿舎を安く貸す 	<p>③見守り活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見守り活動（既に行っている） 	<p>⑤散歩しやすいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園内にトイレや日影を作って、散歩しやすいまちにする
<p>④見守り活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増えてきており、住民主体のパトロール活動を強化する ・警察にパトロールを強化してもらう 		<p>⑥帰ってきたくなる安心な団地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に故郷（伊敷団地）に戻ってきてもらうことで人口増につなげる 	

今後の予定

■検討スケジュール



テーマ：取組みの方向性を話し合う

- 【プログラム内容（予定）】
- ① 団地活性化の取組みを行うことによる目標を共有する
 - ② まずできる「はじめの一歩」の取組みを企画する



鹿児島市ホームページ
「住宅団地の活性化に向けて」



過去のまちづくりニュースや、次回のワークショップ開催予定などもご覧いただけます。
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kensetu/toshikeikaku/toshikeikaku/danti.html>



フェイスブック
「鹿児島市 住宅団地ワークショップ」



ワークショップに参加している大学生等によって運営されています。最新の話題をお届けしています。
<https://www.facebook.com/kagoshimashi.jutakudannchi.workshop/>

- 鹿児島市 都市計画課（担当：井上、諏訪田、宮）
連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所（業務受託事業者）
連絡先：099-210-9091（担当：大脇、岩切）